

## 生活・総合的な学習の時間ワーキンググループにおける検討事項のうち、今回（第 7 回）特に御議論いただきたい点について（案）

### <生活科>

- これまで議論してきた、生活科で育成すべき資質・能力（資料 2-3）や学習過程の在り方（資料 2-4）、幼児期との接続に関するイメージ等を踏まえて、以下の点についてどのように考えるか。
  - ・ 生活科の特質に応じ育まれる見方や考え方について（資料 2-1）
  - ・ 生活科のイメージについて（資料 2-2）
  - ・ 評価の観点の在り方について（資料 2-5）

### <総合的な学習の時間>

- これまで議論してきた、総合的な学習の時間で育成する資質・能力（資料 3-3）や学習過程の在り方（資料 3-4）のイメージ等を踏まえて、以下の点についてどのように考えるか。
  - ・ 総合的な学習の時間の特質に応じ育まれる見方や考え方について（資料 3-1）
  - ・ 小・中・高を通じた総合的な学習の時間のイメージについて（資料 3-2）
  - ・ 評価の観点の在り方について（資料 3-5）
  
- その際、高等学校の総合的な学習の時間の在り方について、小・中学校までの取組を更に発展させる観点を踏まえつつ、理数探究（仮称）をはじめとする各教科等における探究的な学習の方向性などを踏まえた上で、どのように考えるか。

（総則・評価特別部会資料より抜粋）

○「見方や考え方」とは、様々な事象等を捉える各教科等ならではの視点や、各教科等ならではの思考の枠組みであると考えられる。こうした「見方や考え方」と育成すべき資質・能力の関係について、以下のような整理ができるのではないか。

- ・ 「見方や考え方」は、知識・技能を構造化して身に付けていくために不可欠である。「見方や考え方」を働かせながら、知識・技能を習得したり、知識・技能を活用して探究したりすることにより、知識を他と関連づけて定着させたり、構造化された新たな知識として習得したり、技能を習熟・熟達させたりすることができる。
- ・ 「見方や考え方」が成長することにより、思考力・判断力・表現力が豊かなものとなり、より広い領域や複雑な事象をもとに思考・判断・表現できる力として育成されていく。
- ・ 学びに向かう力や人間性の育成には、どのような「見方や考え方」を通じて社会や世界にどのように関わるかという点が大きく作用している。